

今週のメニュー

■ [トピックス](#)

◇ 2013年 NEW環境展で新たな環境技術・サービスの発掘

■ [随想](#)

◇ 「農ビリサイクルと私」 ー第四章：確立期ー

株式会社黒田工業 黒田 實

■ [編集後記](#)■ [トピックス](#)

◇ 2013年 NEW環境展で新たな環境技術・サービスの発掘

5月21日(火)~24日(金)の4日間、東京ビックサイトにて、[第22回NEW環境展](#)が開催されました。

本展示会は、多様な資源の有効利用や新エネルギーの活用を目的とした環境技術・サービスを一同に展示情報発信する事により、環境保全への啓発、国民生活の安定及び環境関連産業の発展を目的として開催されてきました。1992年に「廃棄物処理展」として初開催され、2000年に「NEW環境展」と改称された当展は、今年で22回目の開催となり、毎年16万人を超える来場者で賑わい、注目される展示会となっております。ガラスびんリサイクル促進協議会やPETボトルリサイクル推進協議会等の殆どの資源リサイクル推進団体が協賛していることから、本展示会からの新たな情報発信に期待していることが伺えます。加えて、塩ビ資源の有効利用を目的とした環境技術・サービスの発掘に注力している当協会も同様な目的で本展示会へ協賛しています。



NEW 環境展

全出展社数484社を分野毎にA~Mの12エリアに分割した大規模な展示会の中で、主にBのサーマルエリアとMの再資源化・廃棄物処理エリアを中心に情報収集をしました。

サーマルエリアで注目したのは、(株)リサイクルエナジー社の廃プラスチック熱分解油化装置でした。従来型に比べプラントコストが安く、熱分解生成油の流動点が10℃程度低く発電機燃料として使用しやすいのが特長との事でした。また、廃プラスチック中に含まれる塩ビ濃度は10%未満であれば処理できるとの事で、今後も注目して行こうと考えています。

再資源化・廃棄物処理エリアで注目したのは、新和环境(株)と(株)LINK PLANETの共同ブースと(株)アスクのブースでした。前者に関しては、廃塩ビ壁紙を敷板(商品名：プラポー)に再生するもので、詳細は当協会の[メールマガジンNo.396](#)を参照して頂ければと思います。



新和环境と LINK PLANET
共同ブース

ます。後者は、卓上小型 廃電線被覆剥離機（商品名：電線マン）で電線直径 2mm～最大 30mmまで対応可能であり、特長は電線を粉碎しないで剥離するので、銅及び被覆材の再生回収効率が高い事だそうです。

資源の有効利用や新エネルギーの活用が重要になって来ている近年において、本展示会の役割は今後大きくなると思います。今後も引き続き、新たな環境技術・サービスの発掘に努めたいと考えます。

■ 随想

◇「農ビリサイクルと私」 ー第四章：確立期ー

株式会社黒田工業 黒田 實

試行錯誤の連続であった。夜休む時もすぐ眠れず、社用便箋を枕元に置いて、天井を見ながら機械の構造をあれこれ想像し、良い考えが浮かんだら枕元の紙に機械の絵を描いて夜が明ける・・・そんな繰り返しの毎日だった。また廃農ビをベルトコンベアに投入すると太陽のような陽炎の発散する物体があって、その物体（夢の中の機械）から吹雪のように破碎された廃農ビが真っ白になって下に積っていく夢を多く見た。

そのような試行錯誤を繰り返しながら、ある程度満足できる破碎・洗浄ラインができあがった。気がついてみると、その試行錯誤の期間はおよそ7年であった。当時、廃農ビフィルムの破碎・洗浄ラインを作るメーカーはなく、自分自身で試行錯誤をしていながら改良を繰り返し、作り上げて行った。こうして、廃農ビフィルムからグラッシュ（パウダー状）原料や再生塩ビペレットの自社製造を成し遂げ、床材や靴の裏底等を製造するメーカーに販売できるようになった。その後、宮崎県の黒田工業が廃農ビフィルムから再生塩ビを原料化していることが全国的に広まり、工場見学や視察をする方々が多く来るようになった。



当時の生産ライン

この苦勞の末作り上げた生産ラインをプラント製品として販売する選択肢もあったが、私はそれをしなかった。何故かと言えば、プラント販売では、この事業を始めた自分の思い、すなわち、困っている人々の役に立ちたい、また、その中で資源の有効利用をしたいという思いの波及性が少ないと考えたからである。考えの基本は、この技術が全国に広がり、役に立てば良いという事であり、見学に来た人にはラインを全て見せ、更には、同業者の所にも行って、技術を教えたりした。技術開示をすることが、自分自身の思いの波及性に繋がるという信念からの行動であった。それが日本の農業が活性化するためだと確信していた。

（つづく）

次回は、「第五章：発展期」です。

⇒ [バックナンバー](#)

■ 編集後記

先日、関東も梅雨入りしました。例年より10日程早いとのことですが、紫陽花も色づき、今年も半分終わってしまう！と焦ってしまいます。

そんな折り、上野の東京国立博物館で開催された『大神社展』に行ってきました。古墳時代、奈良時代の鏡、勾玉などの出土品や、平安時代から鎌倉・室町時代の神像、屏風などが展示されていました。神像は神様の姿を人間の形に表したもので、男神像と女神像があります。中には、お雛様のように対になったものもありました。様々な展示品を見て永い時の流れを感じることができました。(漠)

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 東 幸次

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL info@vec.gr.jp